

祐善寺だより

第13号

発刊日

2004年11月1日

真宗大谷派 祐善寺 住職/岡崎 賢 福井県丹生郡朝日町上糸生・森 TEL 0778-34-5170 FAX 0778-34-5170



私たちは

つながって

生きている

つながりを

私として

つながりを

あなたとして

生きている

宮城 顛

報恩講をお迎えする

住職 岡崎 賢

本年度の当寺の報恩講は、例年の通り十一月二日に厳修されます。御本山においては、親鸞聖人の御命日に合わせて、十一月二十一日から御命日の二十八日まで、御正忌報恩講が営まれます。

報恩講とは、私共、浄土真宗の門徒にとりまして、最も大切で最大の行事であります。報恩講は、本山や末寺にとって最大の行事であると同時に、各ご家庭でも営まれます。私共のところでは、秋回りとも呼んでおりますが、ご家庭のご仏事としては、最大の行事でありますので、

仏具等は念入りに磨き、気を引き締め、真心をもって報恩講をお迎えしたいと思えます。

親鸞聖人は、「仏恩を知り、仏恩に報いる生き方ができる人間になろう。それが幸せな人生を生きる道である」と教えます。

て下さいました。我々凡夫にも、往生浄土への道を顕かにして下さった親鸞聖人の仏恩に報いるための法要が報恩講なのであります。

今年は何年になく天候も異常でしたが、秋の収穫も終え、この一年、仏様に護られて過ごすことができました。そのことに感謝申し上げながら、大事に報恩講をお迎えしようではありませんか。



豪雨災害お見舞い

「平成十六年七月福井豪雨」・「台風二十三号」により被害に遭われました門信徒様はじめ、被災者の皆様に対し、衷心よりお見舞い申し上げます。

本年度の同朋会を振り返って

例年三月から十月までの第一日曜日朝八時半から実施している同朋会は、本年度も去る十月第一日曜日（三日）をもって終了しました。

本年度は、草刈奉仕作業日と重なった八月を除く、七回の同朋会に延べ七十一名の方が参加して下さいました。

参加していただく方の顔ぶれは大体固定されてきていますが、毎月一回、本堂の阿弥陀様の御前に参集して皆なで正信偈を唱和し、座談することを楽しみにして参加される方がおられるのもまた、事実であります。それも、遠く滋賀県から参加される方もおられるのです。このことこそ、同朋会の本来の意義なのだと思います。同朋会は、決して、仏教＝真宗を「学ぶこと」が目的ではありません。同朋会を御縁として、「寺」や「ほとけさま」や「しんらんさま」「おしゃかさま」と親しくなることが、同朋会を開催していく大きな目的なのであります。

つまり、真宗の教えを生活の中に活かしていく営みの一つとして同朋会がある、と言っても過言ではありません。来年度からは、参加される皆さんが当番制で日頃感じていることなどにつ

いてスピーチをしよう、ということになりました。同朋会に参加して、月一回でも仏の心の一端にでも触れていくような体験を、また来年、させていただきたいと願います。

私共にとつての、「後生の一大事」とは何か？ を探っていききたいものです。

今年、同朋会にご参集下さいました皆様、ありがとうございます。来年は、更に多くの方にご参加いただきたい、と希望しております。



10月3日に実施された本年度最終回の同朋会

役員会だより

謹啓 慈光の下、御門徒各位におかれましては、愈々ご健勝にてお過ごしのことと拝察申し上げます。

平素より、当寺の法灯護持には格別のご支援、ご協力を賜りまして、誠に有難く、厚く御礼申し上げます。

さて、当寺本堂屋根は、平成元年に前面・西面の全面、東面の半面の瓦を葺き替えていただきましたが、残る北面屋根瓦の傷みも目立ってきております。

役員会としまして、この件について数度協議を重ねてきましたが、①屋根は、建物で一番大事な箇所であるので、このまま放置することは出来ない。

②修復するならば、できるだけ早期に着工すべきである。

③修復費用の御門徒へのご依頼は、分割等で納めていただくような方法もとるべきでないか

——との結論に至っているところであります。

この件につきましては、来年一月二日の門徒総会にお諮りし、ご相談しながら進めさせていただきますが、御門徒各位におかれましては出費ご多端の折柄、再びご迷惑をおかけすることになります。どうか、事情ご賢察いただきたく、ご報告方々お願い申し上げます。末筆乍ら、皆様、呉々も御身ご自愛下さいますよう念じ上げます。

合掌

平成十六年十月

祐善寺役員会 代表役員 岡崎 賢

筆頭総代 山内吉兵衛

役員 一同

御門徒各位

本山高校生奉仕団に参加して

岡崎 優 大

僕は、七月二十九日から三十一日迄真宗本願(東本願寺)で行われた全国高校生奉仕団に参加しました。

奉仕団の日程を紹介しますと、まず、結団式で顔合わせを行い、オリエンテーション、それから、本願寺の中を見学。夜には、二日目の野外活動の買物に行きます。そして、二日目に東本願寺から出て、野外でカレーを皆で作りました。

た。最終日は、昼食後、感想文を書いて解散になります。

今回の奉仕団で一番印象に残っていることは、この奉仕団に台湾の人が参加しており、台湾の人に会えたことと、野外活動で保津峡に行つて皆なでカレーを作ったことです。

全国から集った高校生たちと楽しい交流があった



僕は、本山の奉仕団には、これで六回目の参加です。一回一回、色んな思い出が残っています。皆さんも東本願寺の奉仕団に行つて、真宗の教えを聞いたたり、全国から上山される皆さんとの出会いを楽しみませんか？ 奉仕団は、一生の思い出になると思いますので、参加して頂きますようよろしく願います。

中学生・高校生に限らず大学生でも参加可能です。今夏の奉仕団で驚いた事は、福井の人が何処の県よりも多かつた事です。来夏は、今夏より多くなる事を願っています。

炎天下での草刈奉仕作業

毎年、梅雨明けを待つて、真夏の炎天下で寺周辺の草刈り作業が行われます。今年は八月一日の日曜日に新庄・天谷地区のご門徒さんに役員さんの有志が加わっていただいて十一人で行われました。

文字通り、真夏の草刈り作業ですから、参加して下さいました皆さんは汗だくで草刈りに取り組んでおられました。この奉仕作業を経て、永代経会・お盆をお迎えします。今年も寺周辺の草刈りや庭木の剪定作業に取り組んでいただき、お蔭様でさっぱりした環境の中でお盆を迎えることができました。酷暑の中で、奉仕作業にご参加いただきましたご門徒の皆様にご心よりお礼申し上げます。



寺の周辺の土手は急傾斜で草刈りも大変！

平成16年度護持費の志納よろしくお願ひします

祐善寺を永代に亙つて護持していただくために、護持費をお願ひしておりますが、今年も次のおりご志納下さいますようよろしくお願ひします。

◇護持費の使途

- ・ 報恩講の厳修費や教化事業の実施
- ・ 本堂を守る火災保険や環境維持費用
- ・ 本山相統講、福井教区賦課金等
- ・ その他

◇年額

一戸平均 一〇、〇〇〇円

◇志納方法

- ・ 寺へ直接志納する
- ・ 秋まわりや法事で住職が貴家を訪問の際に志納する
- ・ 地区の役員さんに志納する
- ・ 郵便振替口座
(〇〇七七〇一九一三〇七二一)
- ・ 加入者⇨祐善寺

◇志納期限

毎年十一月末日

へ振り込む

本山だより

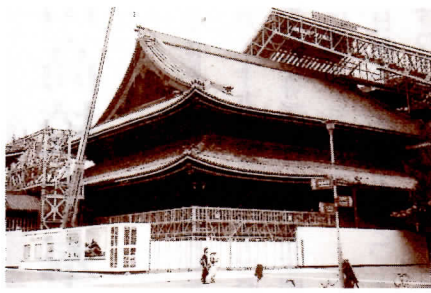
本山御影堂屋根
修復工事始まる！

二〇一一年に厳修される親鸞聖人七百五十回御遠忌の特別記念事業として御影堂の修復工事が始まりました。

先般、七月二十九日から素屋根をスライドさせる工事が始まっています。御影堂屋根を修復するために、御影堂の上に素屋根をかぶせて工事が進められます。

年内には、世界一の木造建築物といわれている本山御影堂が工用素屋根ですっぽり覆われ、来年一月より屋根瓦を降ろす作業が始まります。

いよいよ御本山も「平成の大修復」が始まります。工事中は、御本山への参詣にご迷惑をおかけしますし、また、本山の「平成の大修復」に、皆様のご協力をお願いします。



本山御影堂の上にかけられた素屋根

除夜の鐘
参加者募集！

一年の締めくくりである十二月三十一日の夜、仏恩に感謝し、行く年を反省し来る年に思いを馳せながら「除夜の鐘」を百八つ撞きます。百八つ撞くといういわれは、人間には百八の煩惱があり、それを打ち消すのが除夜の鐘であると言われていますが、真宗では、百八の煩惱説をとりません。

当寺の除夜の鐘は、例年、常連の方々によって、どんなに寒い年でも一度も休むことなく、撞き続けられてきました。一年の仏恩に感謝し、皆さんも除夜の鐘を撞きませんか？ 十二月三十一日午後十一時四十五分頃から撞き始めますので、除夜の鐘を撞く人を募集します。寒い時ですが、勇気を出してご参加下さい。きっと、良い思い出が出来るに違いありません。



昨年の除夜の鐘つき風景
若い方もご参加いただきました

おくやみ

斎藤儀春様（福井市渡町）
には、九月二十一日、行年七十九歳にて往生の素懐を遂げられました。
御生前中の御功勞に、心より深謝申し上げます。



投稿のお願い

この『祐善寺だより』の発刊を支えて下さるのは、皆様からの投稿やご協力が不可欠です。どうか、日頃感じられている「宗教」の話や、社会の出来事についての感想、生活で感じられていること、本山や祐善寺に対してのご意見など、どのようなことでも結構です。とっしとご投稿下さいますようお願いいたします。



年忌法要を

お勤め下さい

今年の年忌表は左記の通りですが、貴家の過去帳をご確認の上、まだ、法要をお勤めされておられない方は、かけがえのない御先祖様の年忌法要を是非勤めて下さいますようお願いいたします。

- 百回忌 明治三十八年没
- 五十回忌 昭和三十年没
- 三十三回忌 昭和四十七年没
- 二十五回忌 昭和五十五年没
- 十七回忌 昭和六十三年没
- 十三回忌 平成四年没
- 七回忌 平成十年没
- 三回忌 平成十四年没
- 一周忌 平成十五年没

第5回

御和讃講座

清浄光明ならびなし

清らかな智慧の光にならぶものは、ありません。

遇斯光のゆへなれば

この光にめぐり遇えたので

一切の業繋ものぞこりぬ

すべての束縛や苦しみからも解放されるのです。

畢竟依を帰命せよ

究極のよりどころである阿弥陀様を信じて生きていく他はないのです。

其の九

仏事 一口メモ

ご本尊とは(2)

蓮如上人は、『他流には、「名号よりは絵像、絵像よりは木像」というなり。当流には、「木像よりは絵像、絵像よりは名号」と、いうなり』と書かれています。

この言葉は、浄土真宗以外の流れをくむ仏教では「名号のご本尊よりは絵像のご本尊、絵像のご本尊よりは木像のご本尊がよい」というが、浄土真宗では「木像のご本尊よりは絵像のご本尊、絵像のご本尊よりは名号のご本尊がよい」という意味になります。

木像・絵像・名号、それぞれのご本尊にはそれぞれ大切な意味があります。蓮如上人は、こうした比較の表現をとることによって、真宗の本尊の意味を明らかにしようとされたのであります。

先覚・安田理深師は、先の蓮如上人の言葉に続けて「壁にかけてある



名号より口から出る名号、これが本当の生きた本尊」と語っています。つまり、本当に尊い生きた本尊とは、彫刻の阿弥陀如来（木像）や絵画の阿弥陀如来（絵像）、書の名号そのものではなく、人の口を通して「南無阿弥陀仏」と噴出するお念仏が尊いのであると、教えてくださっているのです。

ですから、「木像より絵像、絵像より名号」、さらには「壁にかけてある名号より口から出る名号」という次第は、それぞれの価値やご利益の順番を表しているのではないのでしょうか。また、木像本尊や絵像本尊では意味がないというのでもなく、今、口に称える名号＝南無阿弥陀仏こそが、本当に尊いご本尊なのだということを示しているのです。

そういう意味で、木像↓絵像↓名号の順番は、木像・絵像という形あるご本尊から人間生活の真つ只中に生きてはたらく名号本尊へとという次第を教えてください。と、お内仏（仏壇）には、絵像のご本尊をおかけしますが、口に称える名号が本当のご本尊というならば、ご本尊をおかけする必要はないのではな

いかと思われられるかもしれません。実はそうではないのです。次回に考えてみたいと思います。「サンガ」より

お知らせ

報恩講

十一月二日(火)

日中 午前十時より
法話一席

御齋 午前十一時半

講話 午後一時より

高齢者へのワンポイント・アドバイス

丹生警察署 交通課長

速夜 午後二時より

法話二席

満座 午後七時より

御伝鈔拝読

法話一席

布教 出雲路善嗣師

皆様お誘い合わせの上、ご参詣下さいますようお願い申し上げます。



参加者募集!

■福井教区本山報恩講団体参拝(日帰り)

とき 11月24日(水) 午前7時30分 福井別院出発

参加費 5,000円

集合地 福井東別院

■本山報恩講奉仕団

とき 11月27日(土)~29日(月)

参加費 15,000円+米代1,300円+交通費(別院からのバス代)

宿泊 本山同朋会館

※参加ご希望の方は、祐善寺までお問い合わせ下さい。

ラジオ放送

『東本願寺の時間』

・福井放送 (FBC)

・毎週日曜日

・午前7時30分~7時40分

日曜日の朝は、FBCラジオの「東本願寺の時間」から始まります。

入門 介護保険 13

訪問リハビリテーションとは?

訪問リハビリテーションは、疾病、傷病のために在宅で療養されており、通院してリハビリテーションを受けることが困難な方に対して、本人の症状・家屋の構造、介護環境等を考慮しながら、理学療法士や作業療法士が家庭を訪問して家庭で行うことのできる訓練法や介助方法等、療養上必要な指導を行なうものです。

介護認定を受け、訪問リハビリテーションを希望し、医師が必要と認めた方が対象となります。

訪問リハビリの内容は、主に①身体的アプローチ、②日常生活動作、③住宅環境の整備、④心理的サポート、⑤ホームプログラムの指導に分かれます。

訪問リハビリは、住み慣れた場所、要介護者本人が自分でできることや、家族や地域との関わりを増やすことで生活範囲を拡げ、寝たきりを防ぎ、快適で豊かな生活を送ることが出来ることを目的とするものです。

利用料は、介護保険の場合は一割負担となります。

編集後記

★近年の天変地変で自然界にも変化が現れています。これまで、問題にならなかつたイノシシやクマの被害が相次いでいます。当寺の周辺にも、イノシシが出没しています。当寺ではまだ、目立つた被害は出ておりませんが、確実に自然界の動物の生態に変動があることは間違いありません。もともと、他の地区では様々な被害が出ています。クマに襲われて重傷を負われた方もおられます。心よりお見舞い申し上げます。動物と人間が共存できなくなってきたのでしよう。人間も動物も住みにくい環境になってきました。

★今年も報恩講をお迎えすることになりました。世の中では、色んな事件や災害がありました。この一年を振り返りながら、生かされている生命を尊び、親鸞聖人の恩徳に感謝していくことを忘れないで暮らしていきたいものです。どうか、ご参詣下さいませ。

★白山に初雪が来て、ずいぶん肌寒くなってきました。皆様、くれぐれも御身ご自愛下さいませように。